

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編vol.13

さて、今回はチャーチモードの内、マイナー系の4種のスケール(エオリアン、ドリアン、フリジア
ン、ロクリアン)を見比べてみましたね。

ポジション的には6弦トニックのものだったので、今回は5弦トニックの方を見ていきましょう。

各スケールのインターバルは、このようになっていましたね。

・エオリアンスケール
tonic、M2nd、m3rd、P4th、P5th、m6th、m7th

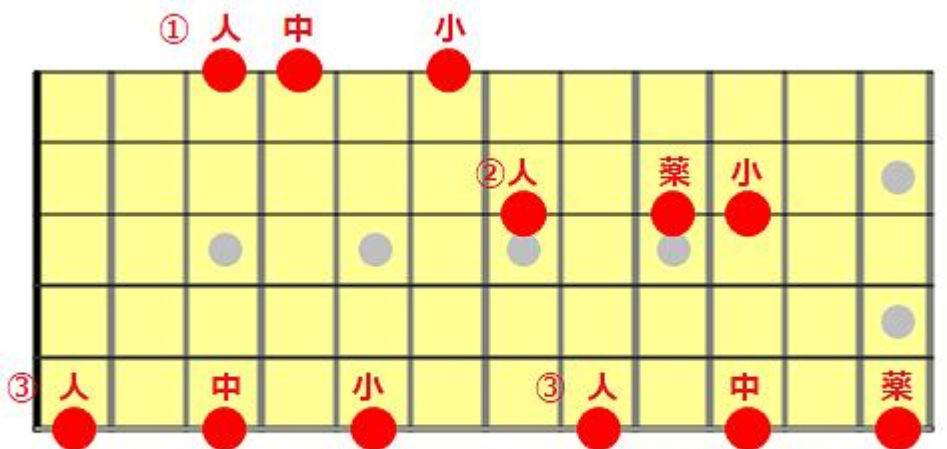
・ドリアンスケール
tonic、M2nd、m3rd、P4th、P5th、M6th、m7th

・フリジアンスケール
tonic、m2nd、m3rd、P4th、P5th、m6th、m7th

・ロクリアンスケール
tonic、m2nd、m3rd、P4th、 \flat 5th、m6th、m7th

引き続きトニックはC音に設定し、各ポジションを見比べていきます。

これまでと同じように、下記の基本指使い図を参考に弾いてみてください。
(※ただし、極端なハイポジションや、フレーズの構成、立って弾くときにギターを下げたり
している場合はこの限りではありません)



※15フレット近辺からそれ以上の

ハイポジションで弾く場合等

※前回と同じくそれぞれ、1ページのインターバルの色分けと一致させてあります。

※※各スケールで特徴となる音が、3npsスケールとして弾く範囲から出ている場合も、そのポジションの近くにあるものは表記しています。

図1、Cエオリアンスケール、3nps、5弦トニック、1オクターブ間

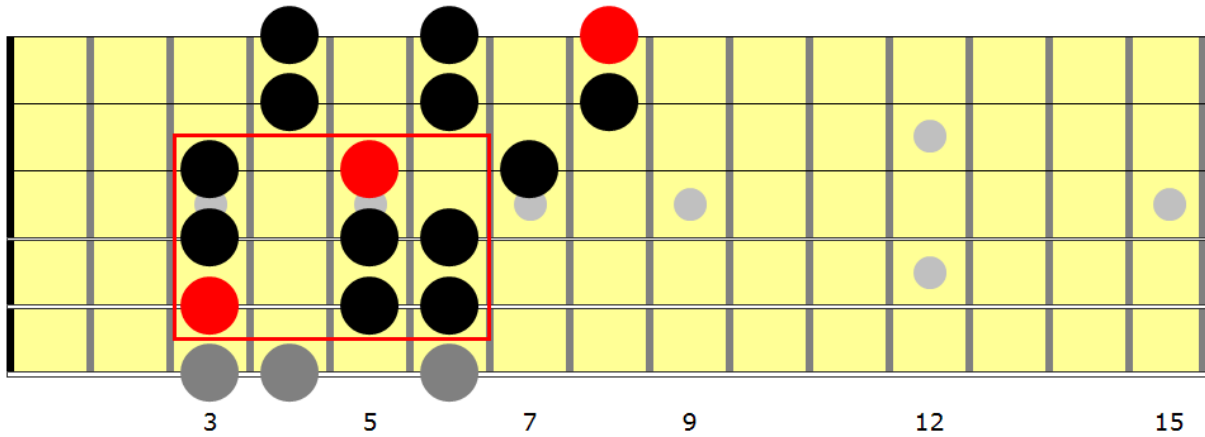


図2、Cドリアンスケール、3nps、5弦トニック、1オクターブ間

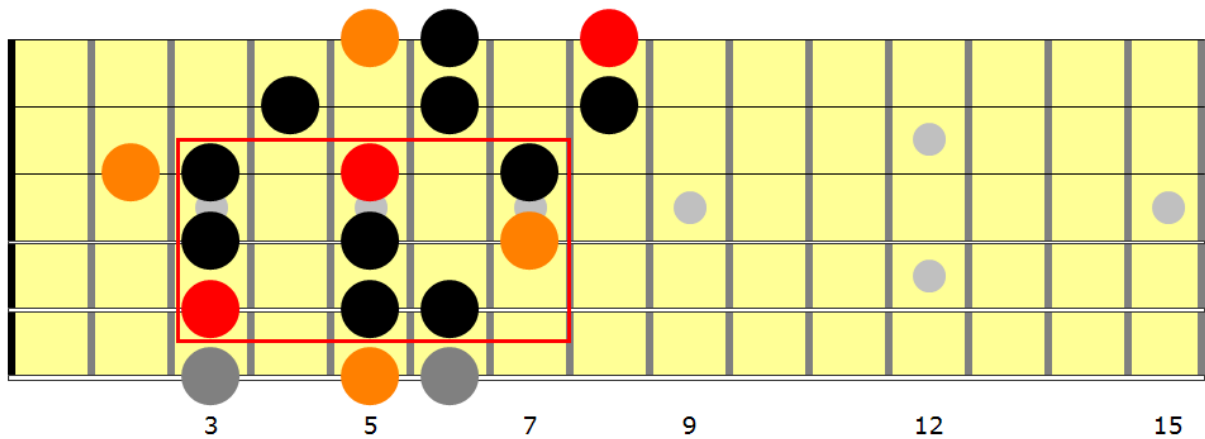


図3、Cフリジアンスケール、3nps、5弦トニック、1オクターブ間

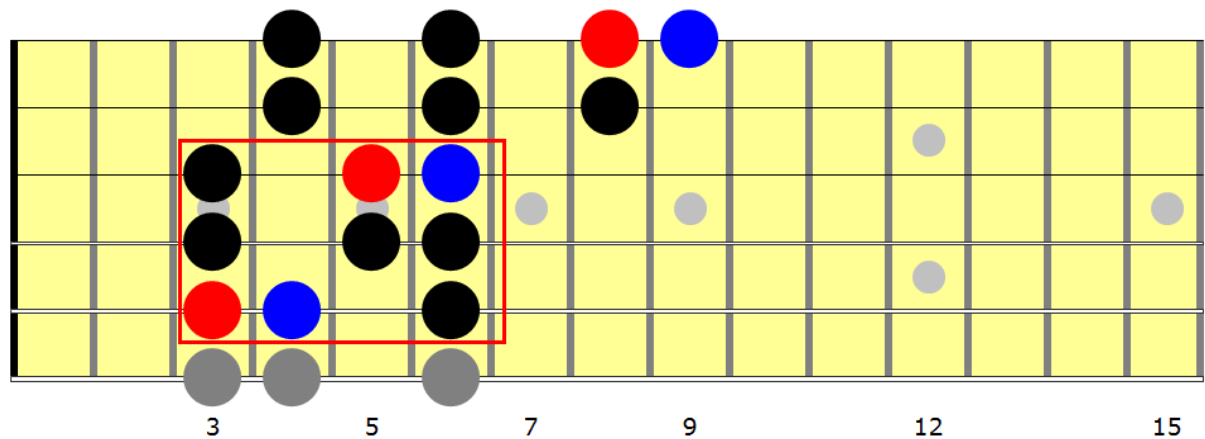
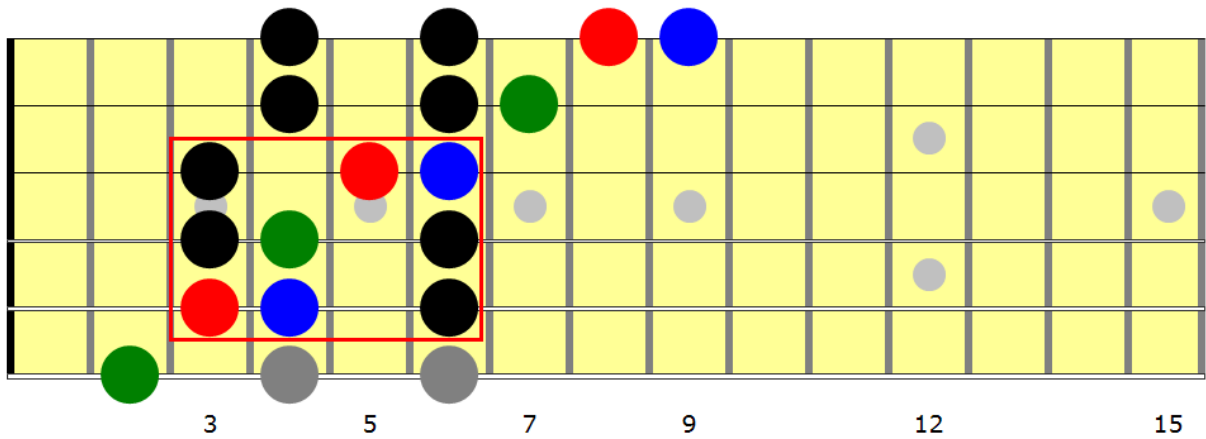


図4、Cロクリアンスケール、3nps、5弦トニック、1オクターブ間



メジャー系スケール(モード)の時と同じように、最初の1オクターブの範囲でみるならば、6弦トニックのポジションと同じ形ですね。

続いて、1オクターブ上の3弦上のトニックから見ていく範囲になります。

図5、Cエオリアンスケール、3nps、3弦トニック、1オクターブ間

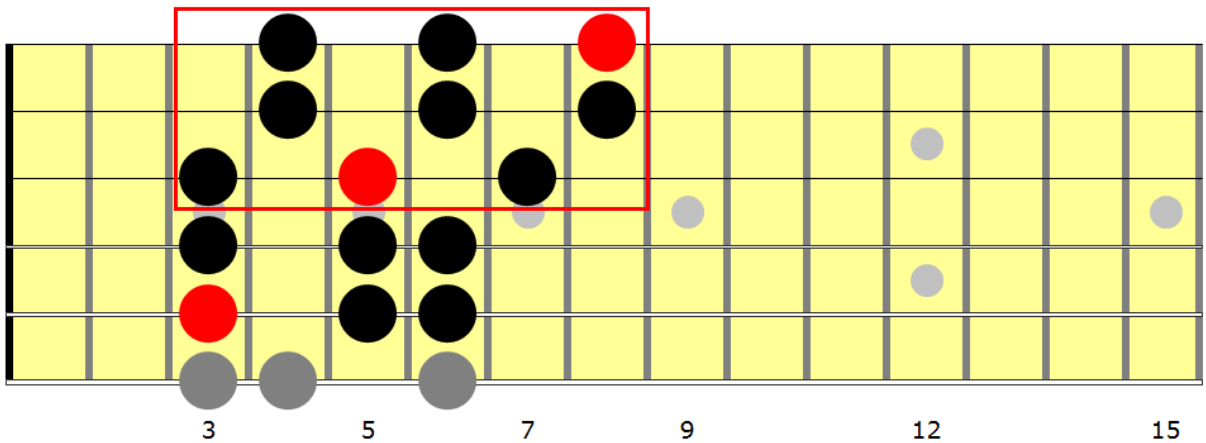


図6、Cドリアンスケール、3nps、3弦トニック、1オクターブ間

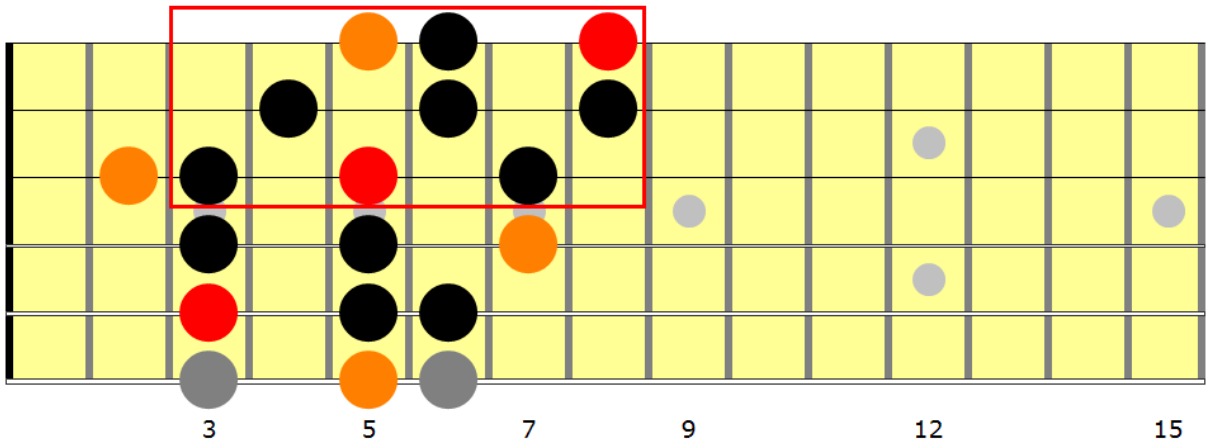


図7、Cフリジアンスケール、3nps、3弦トニック、1オクターブ間

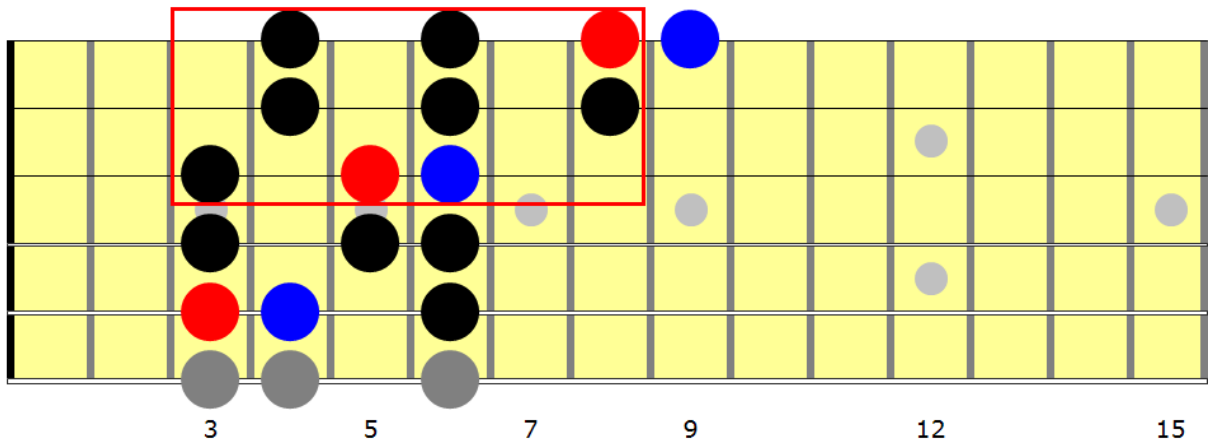
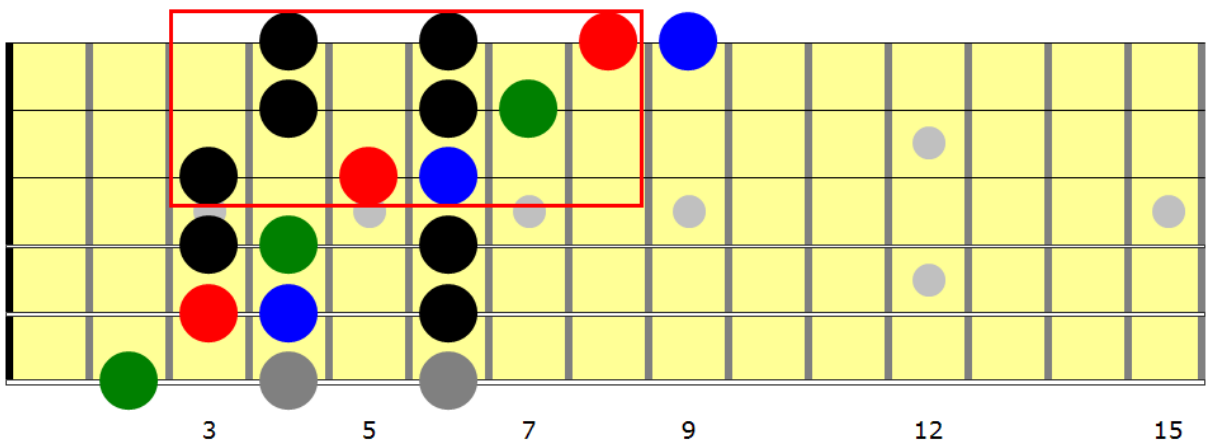


図8、Cロクリアンスケール、3nps、3弦トニック、1オクターブ間



基本的には、これまでやってきたことと同じなので、後半の解説は駆け足気味になっていますが、構造を確かめながら、焦らずに1つずつ覚えていきましょう。

全てのトレーニングに言えることですが、演奏スキル向上としての指や手を動かすものと、知識や理論の面から音楽的な構造を把握するものは、分けて行うことをお勧めします。

構造把握については、最初は時間が掛かるとは思いますが、慣れてしまえば一瞬でわかるようになりますので、できるだけ早い段階から取り組んでいくことを心がけていきましょう。

ゆっくりインターバルの数字を確認しながら、手と耳と頭で身体に入れていく感じを掴んでください。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼